



## 地域づくりは「量」ではなく「質」

新国 勇

2050年、只見町の人口は現在のおよそ半分、2,084人になると予想されている（国立社会保障・人口問題研究所2023）。会津17市町村でも、3つの自治体を除いて、人口はほぼ半減する。6割以上減る町さえある。福島県全体でも32%、日本国内では17%、減少するという。もう「減る」ことから逃れるすべはない。

いっぽう世界の人口は増加傾向にあり、2050年には100億人を突破するという。しかし、世界人口もピークを過ぎれば、減少に転じると予測されている。「多産多死」社会だった日本が、高度経済成長以降は「少産少死」社会となり、人口減少、少子高齢化にシフトした。世界人口もおなじ道をたどることだろう。

水・食料・土地から石炭・石油・天然ガスまで無尽蔵はありえない。資源や土地が有限な地球で、指数関数的に人間だけが増え続けることは不可能だ。生物学でロジステック曲線というS字カーブを横に倒した表がある。それが示すのは、ある限られた環境内にある生物は、資源が豊富なうちは爆発的に増えるが、資源の減少とともに衰退し消滅していくということだ。それは生きとし生けるものの宿命といえる。いずれは縮小していく社会なのに、人口を増やして経済活動をさかんにし、デジタル・トランスレーションで効率化を、と矢継ぎ早に駆り立てられ、追い詰められたすえ、ストレスだらけの鬱社会を招いているような気が

する。恋愛、結婚、子どもを産むこと、働き甲斐さえ萎えてしまいそうな息苦しい世の中になった。

心安らかな安定した暮らしを保つ社会をつくるためにはどうしたらよいだらう。その方策として、「サステナビリティ」という思想がある。人間と環境との調和をはかり、将来の世代にも今の安定した暮らしを持続させるという考えである。調和や持続といっても、具体的にどうすればいいのかわからない。それには「経済成長と効率優先の社会」から「心が満たされる社会」にするという意識の改革が必要だ。それさえ浸透すれば、将来にわたって安定した暮らしと経済、環境を保っていくことができるのではないかと思う。

この点において、只見町はモデルになる。いろいろな学術調査を行い只見にしかない価値を見出しているからだ。自分の住むまちの特色を、理解して納得する住民が増えれば、なにが大切でなにを残していけばよいかという目標をもつことができる。意識の高い住民が増えれば、不自由なことがあっても、住み心地は格段に向上する。自分の住む地域の自然・歴史・文化を探り、その価値を認識することによって、人と地域は変わる。人やお金という「量」ではなく、住む人の意識や文化という「質」を高めていけば、さまざまな人が引き寄せられ、魅力ある地域が生まれることだろう。



### 活動報告 2024年1月～6月

- 1/13㊥ 新年会 ダイニングキッチンいわさき 20名
- 1/14㊤ 全国ガンカモハクチョウ類一斉調査 1名
- 2/20㊤ 学ぶ会通信 vol.18 発送 5名
- 5/12㊤ 集落めぐり①一二軒在家 7名
- 5/14㊤ 花暦調査 要害山① 4名
- 6/11㊤ 花暦調査 要害山② 3名

#### 全国ガンカモハクチョウ類一斉調査

毎年1月15日は、全国ガンカモハクチョウ類一斉調査の日。環境庁のもと福島県自然保護課が担当していましたが、

今年度は依頼なし。事業がなくなったのではなく、只見は外されたのかなと想像しています。もう何十年もやってきたので、1人でカウントしてきました。

#### 滝湖のカウント結果

コハクチョウ7、マガモ48、ヒドリガモ3、コガモ7、キンクロハジロ179、ホシハジロ191、カワアイサ6、オオバン14、カンムリカイツブリ1、カイツブリ1 計10種457羽

#### 只見湖のカウント結果

カルガモ87、マガモ126、コガモ172、オナガガモ1、ヒドリガモ8、キンクロハジロ32、ホシハジロ86、カワアイサ4、オオバン128、カワウ5、アオサギ2 計11種645羽  
イサム

## 「会津朝日岳登山道」調査報告

新国 勇、高原 豊、高原郁子

今号では、2022年「会津朝日岳登山道」と2023年「奥会津ただみの森キャンプ場」の2年分の花暦調査をまとめて報告します。

まず、2022年に行った「会津朝日岳登山道」の調査結果からです。

調査コースは図1のとおりです。黒谷の白沢集落から入り、いわなの里を通り抜け、会津朝日岳登山道入り口にある駐車場をスタートして、赤倉沢沿いに歩く約1.3kmの登山道で、ふつうに歩けば1時間程度の距離です。調査地は、標高550m～680mのゆるやかな登り坂が続くコースで、ブナなどの落葉広葉樹からなる自然林の中にあり、沢を数か所渡ります。春はブナの新緑がまぶしく、夏は広葉樹の涼しい木陰となり、秋には深紅の紅葉が絶品です。登山道から望む谷をはさんで反対側の山腹斜面は、典型的な雪食地形となっていて、なだれ地特有のモザイク植生を見ることができます。

駐車場で車を下り、参加者全員で、つぼみ、花、実をつけた植物を記録しました。シダ類は名前が分かるものだけとし、イネ科、カヤツリグサ科、スゲ属、コケ類および栽培種は原則として調査対象外としました。越後三山只見国定公園の特別地域に指定されているため、標本採取は行いませんでした。5月から11月まで毎月1回、のべ55名の方にご協力いただきました(表1)。

今回の調査で150種の植物が確認されました。その花暦は表2のとおりです。過去に行った調査では、癒しの森

124種(2018年)、黒谷林道188種(2019年)、寄岩林道214種(2020年)、楢戸沢林道230種(2021年)でした。今回は以前の調査地に比べて種類数は少ないのですが、調査地が安定した森林内で均一な自然環境にあること、林道のように変化に富んだ地形をもたないことが考えられます。

只見町指定貴重動植物や日本海側に生育するものなど、注目すべき植物は22種ありました(表3)。このうち、県のレッドリストに該当する植物が3種、県と国のレッドリストに該当するものが1種です。国定公園の特別地域として保護されていますが、生育環境が水辺など限られているものはとくに注意が必要と思われます。

警戒すべき外来種はヒメジョオン1種で(表4)、登山道入口の駐車場付近で確認されました。このことは調査地が人為活動の影響が少ないことを示す証しで、良好な植生環境を保っているといえます。

残雪が残る5月、ブナの葉が放つライトグリーンの下で、オオイワウチワ、オオイワカガミ、カタクリ、キクザキイチゲが咲きだします。沢近くにはチャルメルソウが小さな花をつけています。アズマシャクナゲやムラサキサシオツツジの花もみごとです。豪雪地であることから、とことど

表1 調査日と参加者

調査日	天候	人数	調査者氏名
5月15日	くもり	11人	新国勇、大宮明、大宮みゆき、古川勝久、古川佑子、渡部和子、遠藤菜緒子、鈴木サナエ、太田祥作、高原豊、高原郁子
6月11日	晴れ	7人	新国勇、大宮明、大宮みゆき、向坂麻希、向坂雄一郎、高原郁子、高原朗
7月17日	くもり	9人	新国勇、渡部和子、遠藤菜緒子、高原の友人一家3人、高原郁子、高原朗、高原豊
8月6日	くもり	3人	新国勇、高原郁子、高原豊
9月11日	晴れ	12人	大宮明、大宮みゆき、渡部和子、遠藤菜緒子、古川勝久、古川佑子、太田祥作、熊倉彰、川又(ゲスト)、高原郁子、高原朗、高原豊
10月8日	くもり 小雨	6人	大宮明、古川勝久、古川佑子、高原郁子、高原豊、高原朗
11月5日	くもり	7人	浜口喜博、浜口徳江、大宮明、古川勝久、古川佑子、高原郁子、高原豊
計7回		のべ55人	



図1 調査コース

国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp/>)を利用



ころに残雪があり、雪解け直後に咲く花から晩春に咲く花まで、同時に見られることも楽しみのひとつです。タニウツギ、ウワミズザクラ、テツカエデなどの樹木の花たちが咲き終わる6月ころからは、ヒメサユリの花が点々と咲き出します。初夏の登山道は、エゾアジサイ、クロヅルが花をつけています。コシジシモツケソウの濃いピンク色の花は深緑のなかでよく目立ちます。ヤマブキショウマ、ヨツバヒヨドリが林道を飾る夏、カラマツソウやオカトラノオも目立ってきます。オヤマボクチやナンブアザミ、タイリンヤマハッカの花が咲くようになると季節は秋を迎えます。沢の水しぶきがかかるころには、ダイモンジソウやオニシオガマが優雅に咲いているのを見ることができます。



調査のようす(7月17日)

表2 会津朝日岳登山道の花暦

種名	調査月	5	6	7	8	9	10	11
フキ								
ショウジョウバカマ								
エンレイソウ								
オオイワカガミ								
オクチョウジザクラ								
オノエヤナギ								
カタクリ								
キクザキイチゲ								
チャルメルソウ								
ミヤマカンسゲ								
ヤマツツジ								
オオバキスミレ								
スミレサイシン								
タチツボスミレ								
ハウチワカエデ								
ブナ								
オオタチツボスミレ								
ツノハシバミ								
タムシバ								
ケアブラチャン								
キブシ								
ニリンソウ								
アズマシャクナゲ								
オオイワウチワ								
ヒメヤシャブシ								
イワナシ								
ムラサキヤシオツツジ								
イヌガンソク								
スギナ								
オオカメノキ								
ツルアリドオン								
タチシオデ								
オオバクロモジ								
ヤマグワ								
ニワトコ								
ウワミズザクラ								
コマユミ								
チゴユリ								
ツボスミレ								
ヒメアオキ								
ヒメサユリ								
フジ								
ホウチャクソウ								
モミジイチゴ								
ミツバアケビ								
テツカエデ								
ミズタビラコ								
ウラジロヨウラク								
エチゴキジムシロ								
ヒメシャガ								
ミツバツチグリ								
タニウツギ								
クマイチゴ								
サワフタギ								
ウリハダカエデ								
ケナシヤブデマリ								
ツルアジサイ								
ナルコユリ								
ヒメモチ								
ニガナ								
エゾアジサイ								
オオバコ								
ハリギリ								
ヤマブドウ								
ミズキ								
オオチドメ								
オトギリソウ								
クモキリソウ								
コオニユリ								
コナスビ								
マタタビ								
クロヅル								
ヤマブキショウマ								
カラマツソウ								
ヨツバヒヨドリ								
キクバドコロ								
コシジシモツケソウ								
トウギボウシ								
オカトラノオ								
トリアシショウマ								

■ つぼみ ■ 花 ■ つぼみと花 ■ 実 ■ 花と実 ■ つぼみと花と実 ■ 胞子葉

種名	調査月	5	6	7	8	9	10	11
アブラガヤ				■	■	■		
リョウブ			■	■	■			■
クルマバハグマ			■	■			■	
サワグルミ					■	■		■
キンコウカ					■	■		
サンカクヅル					■	■		
モウセンゴケ					■	■		
ヤマモミジ					■	■		■
オオナルコユリ					■	■	■	
キツネノボタン					■	■	■	■
オオイタドリ					■			
ガンクビソウ					■			
サワヒヨドリ					■			
タチアザミ					■			
ネジバナ					■			
ハナニガナ					■			
ヒメジョオン					■			
ヌスビトハギ					■	■	■	■
ゲンノショウコ					■	■	■	■
アカソ					■	■	■	■
サワオトギリ					■	■		
アオホオズキ					■			
アブラチャン					■			
ウド					■	■	■	
メマツヨイグサ					■	■	■	■
キンミズヒキ					■	■	■	■
ミヤマトウバナ					■	■	■	■
クロバナヒキオコシ					■	■	■	■
イタドリ					■	■	■	■
ホツツジ					■	■	■	■
サラシナショウマ					■	■	■	■
ナンブアザミ					■		■	■
オヤマボクチ					■	■	■	■
アオミズ					■			
タケニグサ					■			

種名	調査月	5	6	7	8	9	10	11
ヌルデ					■			
ヤブコウジ					■			
ハナヒリノキ						■		
ホオノキ						■		
オクノフウリンウメモドキ						■	■	■
サルナシ						■	■	■
ススキ						■		■
カントウヨメナ						■	■	■
ツリフネソウ						■	■	■
ハシカグサ						■	■	■
ミヤマウズラ						■	■	■
ウワバミソウ						■	■	■
チヂミザサ						■	■	■
ユウガギク						■	■	■
アキノウナギツカミ						■	■	■
オトコエシ						■	■	■
シラネセンキュウ						■	■	■
タイリンヤマハッカ						■	■	■
ダイヤモンドソウ						■	■	■
ミゾソバ						■	■	■
サジガンクビソウ						■	■	■
オオヨモギ						■	■	■
ヒメジソ						■	■	■
ヤブマメ						■	■	■
ヤマニガナ						■	■	■
ヨモギ						■	■	■
アキノキリンソウ						■	■	■
ハッカ						■	■	■
ゴマナ						■	■	■
ツルリンドウ						■	■	■
イヌタデ						■	■	■
ハナイバナ						■	■	■
オニシオガマ						■	■	■
リンドウ						■	■	■
ウルシ								■

■ つぼみ ■ 花 ■ つぼみと花 ■ 実 ■ 花と実 ■ つぼみと花と実 ■ 胞子葉



朝日に輝くアブラチャンの花(5/15)



雪解け直後に咲き出すオオイワカガミ(5/15)



典型的な雪食地形を見ることができる(5/15)

表3 会津朝日岳登山道の特徴的・注目すべき植物

種名	科名	日本固有	特徴等
ヒメサユリ	ユリ科	●	只見町指定貴重動植物、準絶滅危惧(国、県)
モウセンゴケ	モウセンゴケ科		只見町指定貴重動植物、絶滅危惧IB類(県)
オオバキスミレ	スミレ科		日本海要素の植物、絶滅危惧IB類(県)
オクノフウリンウメモドキ	モチノキ科	●	準絶滅危惧(県)
アズマシャクナゲ	ツツジ科	●	只見町指定貴重動植物
ウラジロヨウラク	ツツジ科	●	只見町指定貴重動植物
カタクリ	ユリ科		只見町指定貴重野生動植物
オオイワウチワ	イワウメ科	●	只見町指定貴重動植物
タムシバ	モクレン科	●	日本海要素の植物
ケアブラチャン	クスノキ科		日本海要素の植物
オオバクロモジ	クスノキ科	●	日本海要素の植物
エゾアジサイ	アジサイ科	●	日本海要素の植物
コシジシモツケソウ	バラ科	●	日本海要素の植物
オクチョウジザクラ	バラ科	●	日本海要素の植物
ヤマモミジ	ツツジ科	●	日本海要素の植物
ヒメモチ	モチノキ科	●	日本海要素の植物
スミレサイシン	スミレ科		日本海要素の植物
ヒメアオキ	アオキ科		日本海要素の植物
タイリンヤマハッカ	シソ科	●	日本海要素の植物
タニウツギ	スイカズラ科	●	日本海要素の植物
ダイモンジソウ	ユキノシタ科		水辺の岩の上に生える、園芸的乱獲のおそれ
キンコウカ	キンコウカ科	●	山地の湿地に生える、園芸的乱獲のおそれ

表4 会津朝日岳登山道の注意を要する外来種

区分	種名	特に問題となる地域や環境
定着を予防する外来種	該当なし	
総合的な対策が必要な外来種	緊急対策外来種	該当なし
	重点対策種	該当なし
	その他の総合対策種	ヒメジョオン

環境省ホームページ:生態系被害防止外来種リスト、特定外来種リストより  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>



残雪の朝日岳登山道(5/15)



登山道わきのヒメジャガ(6/11)

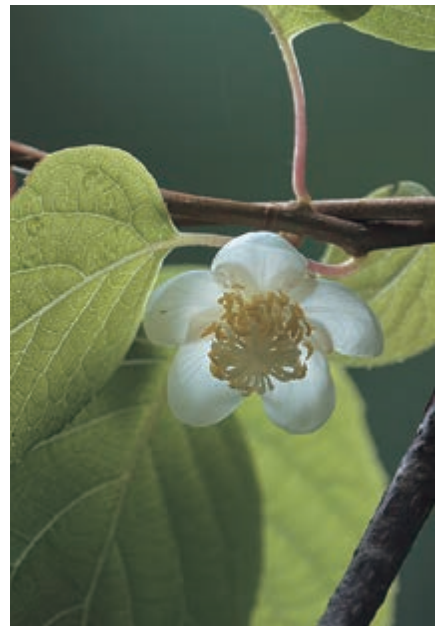




急峻な岩壁に自生するヒメサユリ (7/11)



登山道沿いに咲き出すヤマブキ  
ショウマ (7/11)



マタタビの花は葉に隠れるよう  
に咲く (7/11)



美しいコシジシモツケソウの花 (7/11)



宝石のような花をつけるエゾアジサイ (7/11)



湿り気のある場所に咲くオニシオ  
ガマ (10/8)



清楚なダイモンジソウの花 (10/8)

## 「奥会津ただみの森キャンプ場」調査報告

新国 勇、高原 豊、高原郁子

はじめての花暦調査地は、2013年の奥会津ただみの森キャンプ場（当時の名称は「只見町青少年旅行村いこいの森」）の遊歩道でした。それから10年経過し、町内の有望な調査地も一巡したとことで一区切りとしました。2023年からは新たな調査地はもうけず、最初の調査地にもどり実施することにしました。すべての調査地を10年後に再調査することによって、その間の植生や種類数の変化、さらには希少種残存の有無や帰化植物の侵入経過を知ることができます。

調査コースを図1に示しました。管理棟となりの駐車場から歩き、民家わきの道から山に入り、尾根にのぼって縦走しながらキャンプサイトに降りるという2013年のコースと同じです。しかし、7月12日の調査時、草刈りがされていない登山道がヤブ化して歩くことが困難となり、やむを得ず従来のコースをあきらめざるを得ませんでした。そこで、下山するときを使う登山道を往復して使うことにしました。登山道の草刈りがされないのは、ナラ枯れによるコナラの枯立木が多く、倒木による被害をさけるため道を使用できないようにしたものと思われます。

キャンプ場の背後にある山は、手入れのされたコナラ林ですが、ナラ枯れによって相当数のナラが枯れてしまい、ところどころにギャップができています。これからどのような遷移がはじまるか興味のあるところです。

調査の日程と参加者は表1にまとめました。

今回の調査で201種の植物を確認しました（表2）。2013



図1 調査コース

国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp/>)を利用

年の調査では204種ですから大きな差はありません。しかし、ササバギンラン、ギンリョウソウモドキ、シャクジョウソウなどの植物はほとんど見られなくなっていました。これは林内や道わきの草刈りがされず低木が侵入したため、自生環境が少なくなってしまったのではないかと思います。また、シュンラン、ギンラン、カキラン、ノビネチドリ、ヤマトキソウ、トリガタハンショウヅル、シロバナニシキゴロモ、フユノハナワラビは今回確認できていません。環境の変化もありますが、確認できなかった植物に美しい花を咲かせるラン科植物が多いことが気になります。自生地がキャンプ場周辺ということからみて盗掘の可能性も考えられ、今後なんらかの対策が必要と思われます。今回、はじめて記録したのものには、ジガバチソウ、ナギナタコウジュ、アリノトウグサがありますが、ラン科植物は盗掘されないよう特別な配慮と注意が必要です。

憂慮されるのは、オオハンゴンソウが侵入し繁茂しはじめたことで、積極的な駆除が必要です。

遊歩道は、ミヤマママコナ、サジガクビソウ、ノギランなどが多く見られます。なかでもアワガタケスミレは分布地が限られる貴重なスミレです。アリアケスミレは、古民家周辺にたいへん広く咲いていますが、草刈りによって刈られてしまうためすぐに見られなくなるのが残念です。

表1 調査日と参加者

調査日	天候	人数	調査者氏名
5月16日	晴れ	6人	新国勇、大宮明、濱口喜博、濱口徳江、高原郁子、高原豊
6月13日	曇り時々雨	8人	新国勇、大宮明、大宮みゆき、渡部和子、渡部さよ子、高原郁子、高原朗、高原豊
7月12日	曇りのち雨	4人	新国勇、渡部和子、小菅岳人、高原豊
8月6日	晴れ	5人	新国勇、渡部和子、高原郁子、高原朗、高原豊
9月13日	晴れ時々曇り	4人	新国勇、高原郁子、高原朗、高原豊
10月11日	晴れ	3人	大宮明、高原郁子、高原豊
11月8日	晴れ	2人	高原郁子、高原豊
計7回		のべ32人	



注目すべき植物は28種(表3)で、前回の36種と比べて8種減っています。減少した植物は、オキナグサを人為的な植栽の可能性が高いことから除いたことと、前記した未確認の植物です。

警戒すべき外来種は6種と、前回より4種増えています

(表4)。増えた植物は、オオハンゴンソウ、ヒメスイバ、エゾノギシギシ、アメリカセンダングサです。とくにオオハンゴンソウは、町内いたる場所に分布を拡大しており、本来の生態系を奪ってしまう懸念があります。

表2 奥会津只見の森キャンプ場の花暦

種名	調査月	5	6	7	8	9	10	11
アオイスミレ		■						
イワナシ		■						
オキナグサ		■						
スミレサイシン		■						
カタクリ		■	■					
ツルアリドオン		■	■			■	■	■
アワガタケスミレ		■						
オオタチツボスミレ		■						
スズメノヤリ		■						
オクチョウジザクラ		■	■					
ウリハダカエデ		■						
キバナイカリソウ		■						
キブシ		■						
トキワハゼ		■						
ニシキゴロモ		■						
ノミノフスマ		■						
フデリンドウ		■						
マキノスミレ		■						
ミツバアケビ		■						
ムラサキヤシオツツジ		■						
モミジイチゴ		■						
ユキツバキ		■						
オオカメノキ		■	■					
マムシグサ		■	■					
ミヤマガマズミ		■		■	■			
スミレ		■			■			
オオバクロモジ		■	■	■	■			
アカマツ		■				■		
チゴユリ		■			■	■	■	
オオイワカガミ		■	■	■	■	■	■	■
キタゴヨウ		■						■
キランソウ		■	■					
タチイヌノフグリ		■	■					
ミミナグサ		■	■					
ムラサキサギゴケ		■	■	■	■			
ムラサキツメクサ		■	■	■	■	■	■	■
セイヨウタンポポ		■	■					
エゾタンポポ		■						
タチシオデ		■						
ヒメサユリ		■						
タネツケバナ		■						
ミツバツチグリ		■						
ツボスミレ		■	■					
ヒメコウゾ		■	■					
ハルジオン		■	■					
ヒメスイバ		■	■					
オランダミミナグサ		■		■				
ヤマツツジ		■	■		■			■
アリアケスミレ		■					■	■

種名	調査月	5	6	7	8	9	10	11
ウマノアシガタ		■						
エゾユズリハ		■						
オオバスノキ		■						
ガマズミ		■						
スイバ		■	■					
クマイチゴ		■	■	■				
サビバナナカマド		■	■				■	■
アカモノ		■	■	■	■			■
ウラジロヨウラク		■	■					
タニウツギ		■	■			■	■	■
ハナヒリノキ		■	■	■	■	■	■	■
センボンヤリ		■				■	■	■
コマユミ			■	■				
ササバギラン			■	■				
テツカエデ			■	■				
フキ			■	■				
ツクバネウツギ			■	■				
ヤマグワ			■	■				
カモガヤ			■	■				
ギンリョウソウ			■	■				
ジガバチソウ			■	■				
ツルアジサイ			■	■				
ナルコユリ			■	■				
ハナニガナ			■	■				
ヒロハテンナンショウ			■	■				
ヤマウルシ			■	■				
コナスビ			■	■				
イワガラミ			■	■	■			■
オオコメツツジ			■	■	■			
ニガナ			■	■	■			
オオチドメ			■	■			■	■
カラスビシャク			■	■		■	■	■
シロツメクサ			■	■		■	■	■
オッタチカタバミ			■	■			■	■
オオバコ			■	■	■	■	■	■
イタチハギ		■						
オニアザミ		■			■			
ヒメジョオン		■	■	■	■		■	■
ムラサキシキブ			■	■				
ヤマユリ			■	■				
コシジシモツケソウ			■	■		■	■	■
ノギラン			■	■	■	■	■	■
イチヤクソウ			■	■	■	■	■	■
ドクダミ			■	■	■	■	■	■
トリアシショウマ			■	■	■	■	■	■
オカトラノオ			■	■	■	■	■	■
エゾアジサイ			■	■	■		■	■
ノアザミ			■	■				
クロウスゴ				■	■			

■ つぼみ ■ 花 ■ つぼみと花 ■ 実 ■ 花と実 ■ つぼみと花と実 ■ 胞子葉



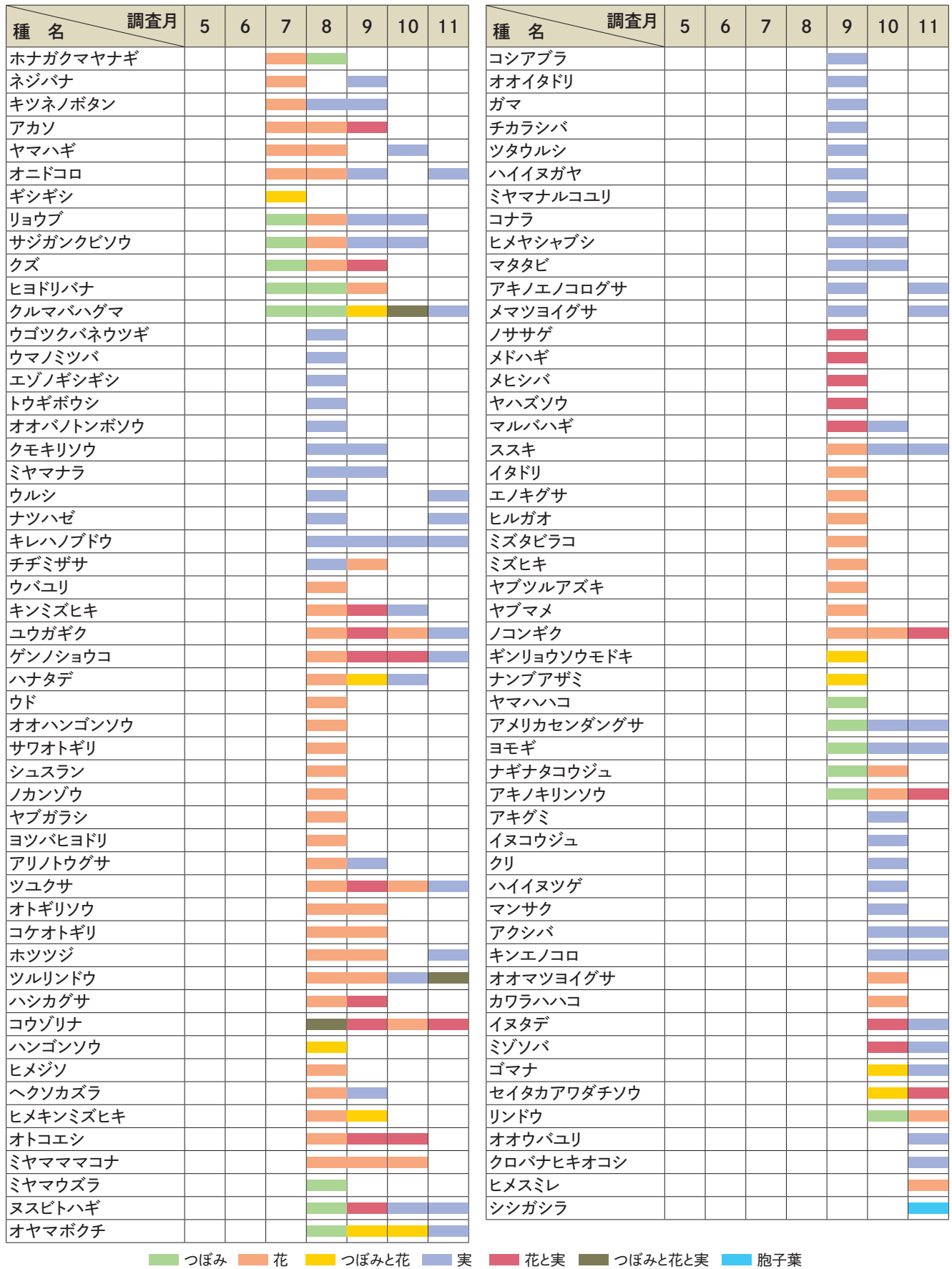


表3 奥会津只見の森キャンプ場の特徴的・注目すべき植物

種名	科名	日本固有	特徴等
アワガタケスミレ	スミレ科	●	準絶滅危惧種(環境省)、新潟・福島・山形県の日本海側多雪地帯に生育
ヒメサユリ	ユリ科	●	準絶滅危惧種(環境省)、只見町指定貴重野生動植物
カタクリ	ユリ科		只見町指定貴重野生動植物
キバナイカリソウ	メギ科		只見町指定貴重野生動植物、日本海要素の植物
ヤマユリ	ユリ科	●	只見町指定貴重野生動植物
ササバギンラン	ラン科		只見町指定貴重野生動植物
オオイワカガミ	イワウメ科	●	只見町指定貴重野生動植物
ウラジロヨウラク	ツツジ科	●	只見町指定貴重野生動植物
ハイイヌガヤ	イヌガヤ科	●	日本海要素の植物
ミヤマナラ	ブナ科	●	日本海要素の植物
オオバクロモジ	クスノキ科	●	日本海要素の植物
ユキツバキ	ツバキ科	●	日本海要素の植物
エゾアジサイ	アジサイ科	●	日本海要素の植物
コシジシモツケソウ	バラ科	●	日本海要素の植物
オクチョウジザクラ	バラ科	●	日本海要素の植物
ハイイヌツゲ	モチノキ科		日本海要素の植物
スミレサイシン	スミレ科		日本海要素の植物
タニウツギ	スイカズラ科	●	日本海要素の植物
オオコメツツジ	ツツジ科		本州の主に日本海側に生育
ホナガクマヤナギ	クロウメモドキ科	●	本数の日本海側の山地に生育、少ない
クモクリソウ	ラン科		園芸的採取のおそれがあるので保護に留意
オオバトンボソウ	ラン科	●	園芸的採取のおそれがあるので保護に留意
ミヤマウズラ	ラン科		園芸的採取のおそれがあるので保護に留意

- 前回調査(2013年)では28種であったが、今回調査では23種となった。
- オキナグサは植栽の可能性が高いことから対象外とした。
- 前回調査で確認されていたが今回調査で見つからなかったもの: ヤマトキノソ、ユキグニミツバツツジ、シュンラン、カキラン、シロバナニシキゴロモ、ノビネチドリ、ギンラン
- 前回調査で確認されていなかったが今回調査で見つかったもの: ハイイヌガヤ、ハイイヌツゲ

表4 奥会津只見の森キャンプ場の注意を要する外来種

区分	種名(2013年調査)	種名(2023年調査)	特に問題となる地域や環境	
定着を予防する外来種	該当なし	該当なし		
総合的な対策が必要な外来種	緊急対策外来種	該当なし	オオハンゴンソウ	湿原や林床
	重点対策種	セイタカアワダチソウ	セイタカアワダチソウ	湿原・湿地
	その他の総合対策種	ヒメジョオン	ヒメジョオン	山地や亜高山帯の草原
		—	ヒメスイバ	山地草原、海岸砂浜
		—	アメリカセンダングサ	湿地
—	エゾノギンギシ	エゾノギンギシ	亜高山帯の草原や湿地	

環境省ホームページ:生態系被害防止外来種リスト、特定外来種リストより  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>

参考文献(2022年、2023年共通)

会津只見の自然～只見町史資料集第4集【植物編】(只見町史編さん委員会, 2001)  
 学ぶ会通信vol.9～16(只見の自然に学ぶ会; 2015～2021)  
 改訂新版日本の野生植物1～5(大橋広好ほか, 平凡社, 2015-2017)

環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp>)  
 国立環境研究所ホームページ([www.nies.go.jp](http://www.nies.go.jp))  
 国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp>)  
 福島県ホームページ(<https://www.pref.fukushima.lg.jp>)





遊歩道を赤く染めるヤマツツジ(5/16)



目が覚めるようなムラサキヤシオの花(5/16)



分布地に限られるアワガタケスミレ(5/16)



アリアケスミレの純白の花(5/16)



ハルリンドウは日当たりのよい場所に咲く(5/16)



一帯を埋め尽くすほどのアリアケスミレの大群落(5/16)



コナラの新緑がまぶしい遊歩道(5/16)





遊歩道に咲くアカモノ(6/13)



尾根に多く咲くオオコメツジ(6/13)



毒草・ハナヒリノキの花(6/13)



ツルアリドオシの可憐な花(6/13)



清楚なイチヤクソウの花(7/12)



キャンプ場背後の山道(6/13)



深紅の実をつけるクマイチゴ(7/12)



群生するオカトラノオの花(7/12)



車輪状に葉をつけるクルマバハグマ(9/13)



# 集落めぐり①—二軒在家

2024年5月12日 9:30 ~ 14:30 参加7名

熊倉 彰

今回が初めてとなる「集落めぐり」。コンセプトは、「集落をゆっくり徒歩でめぐって、興味のおもむくままになんでも見てやろう」といったところでしょうか。

車で通過するだけでは、その集落のことはなにも見えてこない…、自転車が趣味のわたしですが、まだ寒くて自転車ではどうもなあという2月、3月に南郷地域の集落を中心に歩き回って改めて感じたことです。それが一人ではなく何人かの目で見たらおもしろいのではないか、なによりもっと只見町のことを知りたい、というのが発案の理由です。

最初の集落をどこにするか相談した結果、歴史と見どころのありそうな二軒在家にけんざいけとなりました。



若宮八幡神社と大ケヤキ



九々生のお二人から情報収集

中の橋のたもとに集まったのは7人。二軒在家くぐりめう字九々生の集落に向かって県道をそれ脇道を歩き始めます。道端には、ヒロハコンロンソウ、イカリソウ、オドリコソウ、ニリンソウの花が次々と現れます。九々生の集落に入り若宮八幡神社への細道を登っていくと、鳥居とその奥に神社が現れ、なにより社の前にすらりと立つケヤキの大木に圧倒されます。勇さんが胸高直径を測ったら402cmもありました。清潔に手入れされた神社の敷地にもホウチャクソウ、ラショウモンカズラなど春の花が群れをなしています。

勇さんが当日配ってくれた資料には、「九々生の由来(飯塚恒夫さんによる)」とあり、この地に二つの沼(男沼・女沼)があり九つの頭を持った竜が現れ黒雲を巻き天に昇っていったことから、九頭竜、いつしか九々生と書かれるようになったのだとか。

集落上手の元糶屋の星さん宅前で野良着姿のお二人に会い、ここを山際に行くと沼があると教えていただきました。神社東方にあるから女沼だろうか、小さく浅い沼でしたが



タニシの言い伝え

『新編会津風土記』に書かれていることによれば、この集落の若宮八幡神社には、つぎのようなご利益があるという。一つ目は、旱魃かんばつとなり雨を降らせたいときには、この境内に集まって獅子踊りを奉納すれば効果がある。二つ目は、熱病にかかったとき、男沼、女沼にいる殻に小さな穴のあいたタニシを採って枕の上において、「治ったらタニシの数を倍にして返します」と言って拝めば、効果があると記されている。また、理由もなくここからタニシを採れば、夜中にあやしい声で「タニシを返せ」と言われるという。いまも神社入口にある水田跡には大きなタニシがたくさんいた。坂田の飯塚恒夫さんは、「このタニシは、沼の主なので、集落の人はタニシを食うことはしなかった」という。村に住むある人が、「それは迷信だ」といってタニシを食ったところ、すぐケガをしたことがあったと話した。200年以上たつて村に残っているのは、若宮八幡神社とタニシだけ？

イサム



確かにありました。

これで九々生の探索は終わり、二軒在家公民館の広場で早めの昼食としました。

本村へ向かいます。集落に入って県道の山側、山内佳子さん宅の稲荷様を拝見します。建て替えられた真っ赤な鳥居と小さな祠、きれいに庭木が配置されています。なんでも稲荷に小さな石をお供えすると夜泣きが治り、その石を旅行に持っていくとお守りになると言い伝えられているとか。山内さん宅でお茶に呼ばれて聞いた話です。小一時間ほどおじゃまして、おしゃべり好きなおばあちゃんから昔のことなどを聞き出しました。

山内さんから聞いた話では、この集落の人は熊野神社の信仰のため昔からクマの肉は食べなかったそうです。その熊野神社へ向かいます。50段ほどの石段を登っていくと広い敷地に熊野神社が建っています。ここもきれいに草刈りがされ、明るく気持ちのいい空間です。入口横には割れた石板があり右手に剣、左手に索(縄)を持つ不動明王が刻まれています。享保十七年(1732)と刻字されているようです。素朴な石仏ですが、迫力のあるお顔です。



山内さん宅の屋敷稲荷

ここからさらに急な山道を一段登ると火伏の神、愛宕神社があります。県道からも見える崖上に建っただけあって風が通り、見晴らしがいい。伊南川沿いの集落がよく望め、勇さんによればかつての狼煙場<sup>のろしば</sup>だったそうです。来た道を戻ると、この参道はコシノコバイモの群生地だということがわかり、みなさん写真を撮るのに忙しそうです(花はおわり実になっていた)。

塩ノ岐との境まで歩き今日の行程はほぼ終わりです。最後に伊南川側の小道を戻りつつ、山内さんに場所を聞いた川除地蔵へ向かいます。行きには見つけられなかった地蔵は、県道脇の田の畔にありました。どうも新しく建て替えられたもののようです。あらかじめ本村に置かせてもらった車に乗り込み、スタート地点に戻りました。

二軒在家は、山が近くてケヤキの木が多く、野草の種類も数も多い静かな集落でした。神社もよく手入れされ、信仰心の篤さを窺わせました。家々も立派なものが多く、豊かな村との印象を受けました。



熊野神社



不動明王の石仏



愛宕神社



国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp/>)を利用



# 会員からの只見自然情報 2024

学ぶ会メーリングリスト(2024年1月～4月)より

## 1/19 んっ?

雪の上さ、木の枝が出っちゃ。その上さ、木の枝とおんなじ形をした氷が並んで立っている。

「んっ?」って思うべや。

じつは、枝さついた氷が、日が照り気温があがったため氷が溶けて、枝から離れた直後なんだで。だから、氷には木の枝の跡が溝を掘ったように凹んでる。滅多にお目にかかれぬ光景。イサム



## 2/20 凛々しいセグロセキレイ

春のような陽気。セグロセキレイも1年でいちばんおしゃれをする季節になった。黒と白のコントラストを際立たせ、ビシッと決めている。恋の相手を迎える準備は万端。だども、さえずりはいまいち。イサム

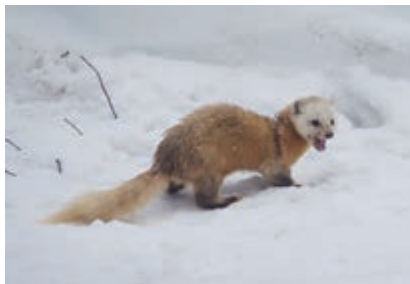


## 2/26 ホンドテン

昨夜遅く、鳥の悲鳴(?)が聞こえました。今朝、家のまわりのを探してみたのですが残念ながら 何の痕跡もありませんでした。足跡はたくさん。ところが昼頃に家の前にホンドテンがやって来ました。道に降りてみたり、雪の上を上をうろうろしたりした後杉林に消えて行きました。黄色の毛皮は少し汚れていましたが、頑張って冬を越しているのですね。

おそらく昨夜の騒動の主人公だと思う

のですけど。また、おいで。 みゆき



## 3/14 フクジュソウ咲く

家の前の道路の土手でフクジュソウを見つけました。毎年この時期に最初の花を見つけるのですが、今年は例年より少し遅いかな。これからどんどん咲くので、坂田・布沢に来る時は道路脇、見てみてください。 治子



## 3/16 テンのお客様

ウチの居間の西側にガラス扉1枚隔てて「薪小屋」と呼んでいる透明波板の壁と屋根をそなえた、薪を積んでおく1坪ほどのスペースがあります。ガラス扉を開けると、そこから薪を取れるようになっているわけです。

きのうは朝からいい天気であたたかく、薪を取り出すこともなく、お昼ころになって洗濯物を「薪小屋」に干そうかなと障子をあげガラス扉を開けてみたところ、なんとテンがのんびりとひだまりで昼寝をしていました。さすがに物音に気づいてテンが頭をもたげましたが、逃げる気配はないのです。洗濯物を干すのを遠慮して扉を閉じました。そのガラス扉越しに撮った写真です。

このテンさま、よほど居心地がよかったのか、昨夜わたしが寝るまでそこでぐっすりおやすみでした。黒沢も空き

家が多く、テンも人間の住まいが居心地いいことに気がついたのでしょうか。人間と野生動物の距離感に変化が生じているのかもしれないね。クマクラ



## 3/27 フクジュソウ

治子さんや和子さんから福寿草便りを受け取ったのでそろそろかなと荒島までお散歩してきました。予想通り咲いています。2011年の豪雨の後の土砂崩れでほぼ全滅状態でしたけど見事に回復してくれました。伊南川の右岸、ロックシェットの先に500mくらいお花畑ができています。満開が待ち遠しいです。今日の伊南川はオシドリがのんびりと浮かんでいました。 みゆき



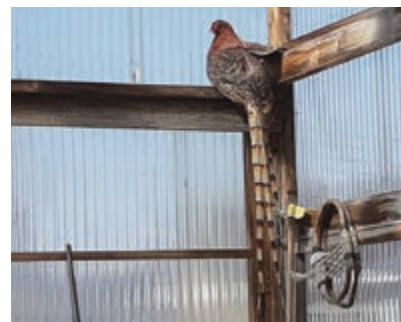
## 3/30 ツバメが来た!

先週の日曜日から声は聞けども姿を確認できず。ようやく今朝、只見線リレーマラソンの応援に駅に行ったらツバメを目視しました。イワツバメも見ました。駅前、チョウゲンボウもいるようです! 早起きはなんとかですね。

ナオコ

## 4/7 ヤマドリ迷い込む

車庫にヤマドリが迷いこんでました。 和子





## 4/11 クマに遭遇

黒沢の林道の雪がだいたい解けたようなので、歩いてきました。1kmほど進んだところで、黒沢川の対岸の斜面で出たばかりの草を食べていると思われるクマを発見。食事に夢中だったのか、しばらく観察できました。スマホで3枚撮ったところで気付いたようで、すばらしい勢いで急な斜面を駆け上っていきました。遠目でしたが、立派な体をしたクマでした。 クマクラ



## 4/17 カシラダカ的美声

夕方、瀬戸(家の裏)から、ピーヒョロロ、ピーチュクと、たいそうきれいなさえずりが聞こえてきた。それがコレ、カシラダカ。冬鳥なんで、はあ北さ帰るどごなんだが、渡去前、ヒタキのような美声で鳴く。世界版レッドデータでは絶滅危惧種Ⅱ類になっちゃって貴重な鳥なんだども、只見ではねっか、ふつう種だな。 イサム



## 4/21 ヤナギの花に群れるヒガラ

奥会津ただみの森キャンプ場。いま、シロヤナギの花がまっさかり。そこさ、ヒガラが群れで、シロヤナギの花を食ってる?! 花にいる虫どか、蜜なんかより、花のおしべか葯<sup>やく</sup>を食ってんであんめえが? 花をむしり取ってる感じだ。20羽ぐれえいだっけ。こだ光景はじめて。 イサム



## 4/22 ホクリクネコノメ

早春の水辺に咲く小っちゃでも可憐な花。緑色の葉っぱさ、黄色く発光しているような部分が目立つ。その中心にあるのは、花が終わって実をつけたあな。花はというと、まだ緑色一色の葉っぱのなかにあって目を近づけて見ないと、わからないくれえ小っちゃ。8本あるおしべは、割れる前は赤くてきれいだども、割れて花粉を出しちゃうと赤色がとれっちも一。地味だども、味わい深い草花だべな。 イサム



## 4/22 スミレサイシンの群落

単独で咲くスミレサイシンだども、ここでは斜面一面に広がっている。これだけの群落をつくるのはめずらしい。地面に寝ころび、しばし春を堪能。 イサム



## 4/24 ズミ

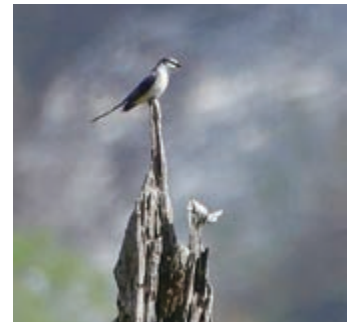
かつてはどこさでもある木だったども、

近ごろはめっきりなくなっちゃった。この木が好むヤチippo(湿地)が少なくなったがんであんめえが。ちなみに、この花は奥会津ただみの森キャンプ場対岸の只見川左岸に生えていたあな。周囲にあったヤナギ林と一緒に皆伐されていた。ここもダムの浚渫土の捨て場になっちゃうごんだ。町じゅう土捨て場だらけだな。 イサム



## 4/27 サンショウクイ

開通したばっかの六十里越さ、行ってきた。サンショウクイがいっぱい。じっとしてねえがら、なかなか撮れない。枯れ木さ止まってくれたのでやっと1枚。ちなみに、この鳥は、サンショウを食ったもんで、ヒリリ、ヒリリと鳴く。 イサム



## 4/30 ミヤマキケマン

家の下の土手さ、みごとなミヤマキケマンの大群落! 逆光だったんで、遠目に撮影。花が波打ってるようだ。 イサム

